

2019年6月2日(日) III ヨハネ 9-15 黄昌性牧師

聖書は我々に罪を教えてくれる。しかし聖書は、人間の罪や十字架の死という「サッドエンディング」で終わるのではなく、キリストの復活、つまり「ハッピーエンディング」で終わることを心に留めたいのである。コロンビア大学の教授がある実験を行った。被験者に対し、今 100 ドルをもらうか、1 か月待って 120 ドルもらうかのどちらかを選んでもらうというもので、ほとんどの被験者は今すぐに 100 ドルを受け取ることを選んだのであった。我々人間は目先の誘惑から逃れられずしばしば論理的思考を失ってしまうことをこの実験は語っている。

ヨハネの手紙はハッピーエンディングの御言葉である。ガイオに対し愛の賛歌を送り、最後に平和を語るヨハネの手紙。礼拝も同様で、語られるのは始めから終わりまで神の祝福についてである。今朝の箇所が登場するディオトレフェスの物語はサッドエンディングを迎えてしまうのかと思わせる内容である。ディオトレフェスは教会のリーダーであった。II ヨハネと同様に今朝の御言葉も自らを「長老」と名乗る人によって書かれた。III ヨハネに登場するのは、神の人であるガイオ、ディオトレフェス、そしてデメトリオである。

ヨハネの手紙 III には「真理」という言葉が 5 回出てくる。そして良いこととは何であるか、兄弟愛とは何であるかそして教会的一致とは何を指すのかを記している。A.D.100 年に亡くなったヨハネが今朝の御言葉を書いたのは A.D.90 年頃であった。ヨハネはペトロとともにエルサレムにおいて指導者として活躍しエフェソで生涯を閉じた。そのヨハネをディオトレフェスがどのように受け入れなかったかをとともに見てみたい。9 節「指導者になりたがっているディオトレフェスは、わたしたちを受け入れません。」「私たち」とはヨハネとヨハネの群れのことである。ヘブ 13 : 7「あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい。」ガイオは巡回伝道者をもてなすことを喜んだ一方で、ディオトレフェスは自分自身がもてなされることを望んだのである。マルコ 10 : 44「いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」という御言葉をディオトレフェスは受け入れることができなかったのであ

る。なぜヨハネたちを受け入れ（もてなすことをし）なくてはならなかったのか。それは、彼らがエルサレム教会(弟子たちは主イエスの死後、エルサレム教会を発足させ、パレスチナのユダヤ人を対象に伝道活動をした。ヨハネは初代教会 (Early Church)においてペトロとともに指導的立場にあった)から派遣された人々であったからである。イエス・キリストの 12 弟子の中で、ヨハネもペトロと同様、エルサレム教会(Early Church)から派遣された指導者であった。 マタイ 16 : 8「わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。」 「岩」であるペトロを土台として今の教会が建てられた。しかしペトロ個人ではなく、「ペトロをはじめとした、ヨハネを含む弟子たち」の群れを土台として「公の教会」が建てられたのである。そのヨハネたちをディオトレフェスは受け入れなかったということである。 10 節「彼は、悪意に満ちた言葉でわたしたちをそしるばかりか、兄弟たちを受け入れず、受け入れようとする人たちの邪魔をし、教会から追い出しています。」 デイオトレフェスは傲慢であった。同じような姿を旧約聖書の人々に見ることができる。民数 16 : 3「彼らは徒党を組み、モーセとアロンに逆らって言った。『あなたたちは分を越えている。共同体全体、彼ら全員が聖なる者であって、主がその中におられるのに、なぜ、あなたたちは主の会衆の上に立とうとするのか。』」 デイオトレフェスは受け入れようとする人たちの邪魔をし追い出した。今朝の聖書箇所にある「追い出す」はギリシャにおいて現在形が用いられており、ディオトレフェスの悪意が継続的であったということがわかる。ヨハネと巡回者たちへのサポートを拒み続けたディオトレフェスの姿は完全にキリスト教会 (Early Church)の教えに反するものであった。「追い出す」という言葉は「エクスタレイ」で、これは「完全に追放した」、ということ。 I コリ 5 : 2「それにもかかわらず、あなたがたは高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの間から除外すべきではなかったのですか。」 ヨハネはディオトレフェスの行いをやめさせようとした。ここで「ヒポンネス」というギリシャ語を用いている。2 節「愛する者よ、あなたの魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにと祈ります。」 ヨハネはガイオを愛していることを今朝の御言葉において、ガイオのためにささげた神様への祈りを通

し表している。ディオトレフェスはある程度の影響力を持っていた。その状況の中、ヨハネはデメトリオをガイオのもとに送ろうとしていた。ガイオとディオトレフェスの教会は別々であったが、近くに位置していたと考えられる。ディオトレフェスは教会を自分のものと考えていたため、ヨハネはキリストの教会のためにディオトレフェスの行いを指摘しなければならないと考えた。箴言 16 : 18「痛手に先立つのは驕り。つまり先に立つのは高慢な霊。」詩編 10 : 4「神に逆らう者は高慢で神を求めず何事も神を無視してたくらむ。」傲慢な者は神を求めないのである。傲慢、高ぶりは罪なのである。今朝の御言葉は二つのコマンドを示している。一つは否定的コマンド、もう一つは肯定的コマンド。ディオトレフェスは罪にある状態でキリストを見た(否定的コマンド)一方、デメトリオは謙遜・柔和の内にキリストを見た(肯定的コマンド)。ハワイには「No rain, no rainbow」ということわざがある。つらいことを乗り越えたら良いことが待っている。あるいは努力しないと良い結果を得られないという意味である。ディオトレフェスはつらいことを乗り越えたら良いことが待っている。あるいは努力しないと良い結果を得られないということを知らなかった。今朝の聖書箇所は、キリストに従うか自分自身の考えに従うかを私たちに問うているといえよう。4 節「自分の子供たちが真理に歩んでいると聞くほど、うれしいことはありません。」私たちはあらゆる人と真理について証しし続けなくてはならない。I コリ 13 : 4「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。」I ペトロ 5:5「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる」からです。」マタイ 11 : 29「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」ディオトレフェスは柔和と謙遜を学ぶべきであった。平和と自由の世界を理解していたガイオとデメトリオは、キリスト者が見倣うべき良いモデルである。11 節「愛する者よ、悪いことではなく、善いことを見倣ってください。善を行う者は神に属する人であり、悪を行う者は、神を見たことのない人です。」一方ディオトレフェスは神を見たのかと言えばそうではなく、むしろ罪の世界に恥を見たのであろう。神の前に立てず神の世界を見ることができなかったディオトレフェス。ヨハネとその群れを受け入れることができなかった理由はそこにある。南町田教会は日本基督教団の

信仰告白を告白し、教団・教区負担金を納めつつ、いわば我々に与えられた務めを果たしながらキリストを礼拝している。巡回者を受け入れ助けることは、キリストを信じる者が当然果たすべき務めである。恥と栄光の世界の違いを知り、なぜキリストは我々のために十字架にかかり死なれたのかをディオトレフェスは考えるべきであった。ディオトレフェスのような肉の思いに従う者は、神に敵対しており、神の御言葉に従っていない。霊の思いは神のものである。我々はキリストの内にある霊にとどまり、平和と恵みを受けたいのである。神に反することはすべて肉の思いである。しかし、神に属する者は神によって神を見るのである。エフェソ5:1「あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。」1ヨハネ4:12「いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内ですべて全うされているのです。」心の清い人は神を見、その人は神様の御心に適う姿へと教会を回復させる。

13節「あなたに書くことはまだいろいろありますが、インクとペンで書こうとは思いません。」ガイオに直接会うことを切望していたヨハネは、キリストの平和と恵みがガイオにあるようにと祈り願い、そして友人たちがよろしくと言っている、と愛の内に語る。ヨハネを通して語られた神様の御言葉はハッピーエンディングで完結するのである。